

ななかまの



NO.525 全日本建設交運一般労働組合秋田県本部機関紙
 2020年4月6日発行 〒010-0976 秋田市八橋南1-2-29
 TEL018-823-7748 fax018-823-7751
 Email: kenkourouakita@bz03.plala.or.jp

イージス・アショア配備反対 …秋田市議会が賛成多数で採択 …秋田県議会は継続審査

秋田市新屋に迎撃ミサイル「イージス・アショア」を配備する計画をめぐっては配備反対の署名がとりくまれ、2月6日に秋田県議会と秋田市議会に4万人をこえる署名が提出されました。それぞれの議会は3月19日に閉会しましたが、イージス・アショア配備反対の意思表示を求めた請願は、秋田市議会が賛成多数で採択しました。しかし秋田県議会は過半数をしめる自民党が継続審査を主張し、議会としての判断を6月議会に先送りし、今回で6度目の継続審査となりました。

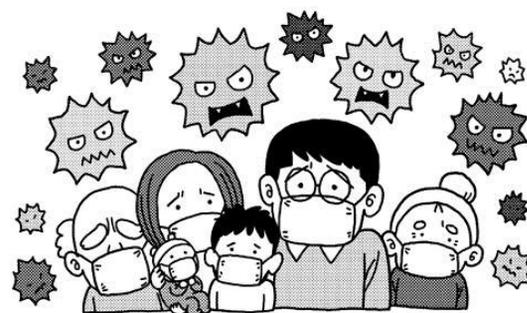
自民党は継続審査の理由として「防衛省がすすめている再調査の対象が能代市、男鹿市、由利本荘市、にかほ市にある9ヶ所も含まれているとして、私たちは全県のことを考えなくてはならない。秋田市新屋だけを除外できない。再調査の結果を待つべきだ」と主張しています。県議会の自民党会派は、住民の不安の声や配備反対の訴えを真剣に聞いて、判断の先送りする姿勢をあらためるべきです。

秋田魁新報は3月20日の社説で「県議会がいつまでたっても反対の意思表示ができないのは理解に苦しむ」、『再調査の結果を待つべきだ』との主張もあるが、新屋配備については調査結果を待たなくても判断できる。議会の主体性が求められる」ときびしく指摘しています。

「ミサイル基地は日本のどこにもいらない」のたたかいは続きます。

★トラックダンプデモ中止

4月19日、第24回トラックダンプデモを予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため実施すべきでない判断し、中止します。



5月3日の「第42回平和憲法をまもる秋田県民集会」も中止になりました。

2020年4月1日までの情報

移らないようから「移さない」へ意識を集中しよう！

設定「自分は今、(無症状で)感染している！」
 目的「だから誰にも移さないように行動する！」

栄養つけてよく笑おう！

ウイルス豆知識

ウイルスが出てくるのは、咳・唾・呼吸。咳・唾が相手に飛べばその人に移る。でも、それは感染者のマスクでほぼ防げる。普通の呼吸だけでは移らない。



なるべく鼻で息を！

口呼吸で思い切りウイルスを肺の奥に吸い込む等は控えよう。



外出中は顔に触らない！

重要！手から移るウイルスからの感染を防ぐ。外出中は手で目・鼻・口を触らない、手で鼻をほじらない。



外出中に触りたい場合！

手を洗う！洗って触る。洗えないならアルコールスプレーウエットティッシュ・ぬれハンカチで拭いて対処しよう。



家に帰ったら…！

すぐに手を洗う。アルコールがあるなら、玄関で吹きかけよう。ドアノブも拭く。お風呂はなるべく早く入る！



人に会うときは…！

人と集まって話をする時は、マスクをする。他人と食事する時は、黙って食事に集中！味わおう。友達との会話は食事後でマスクをして話そう。

◆宮沢孝幸さん(京都大学准教授・ウイルス再生医科学研究所)のツイッターをもとに、京大大学院生の岡田さんが上のチラシをつくりました。岡田さんは次のように言っています。「このチラシは、インターネット等の使用が困難な方に配布したく個人的に作成しました。もし私と同じように周りにインターネットが閲覧できない人がいらっしゃれば、可能な限りで結構ですので印刷し配布していただければ嬉しいです。ツイッター(つぶやき)の発信者宮沢先生に連絡し、拡散は問題ないとのこと」

八面六臂(はちめんろくべい)

2019年12月に中国の湖北省武漢市で発見された新型コロナウイルスは、わずか数ヶ月で世界中に広がりました。日本では一時ウイルスを封じ込めているように思っていました。ここに来て爆発的に感染が広がっています。▼新型コロナウイルスの特徴としては、軽症だが一部が重症化する事もあると言つ。初期病状としては風邪との区別が困難な病状で、発熱は半数以下だと言つ報告もありません。多くの症例は軽症で自然に改善し、13・8%が重症、6・1%が重篤(呼吸不全、敗血症性ショック、多臓器不全など)で、3・8%の方が亡くなっています。高齢者や併存疾患がある方は重症化や死亡のリスクが高く、特に80歳以上では21・9%の方が亡くなったと中国のデータなどで示されています。インフルエンザでの致死率は0・1%以下と言つデータに対し、新型コロナウイルス感染症は3・8%もあり、非常に危険なものだと言えます。▼新型コロナウイルス感染症から身を守るにはどうすればいいのでしょうか。インフルエンザ対策とほぼ同じだと思えます。①不要の外出や人混みを避ける。②手洗いを心がける。(手指消毒用アルコールもしくは、流水と石鹸を使って手洗いを)。③顔にはできるだけ触れない。④睡眠や食事をしっかりと摂り、体調を常に整えておく。⑤マスクを着用する。⑥部屋は換気を心がける。(その他にもたくさんありますが、ご自身や家族を守るために出来る限りの事は、後で後悔しないためにも行いましょう。▼先日新型コロナウイルス感染症で肺炎を発症しコメントの志村けんさんがお亡くなりになりました。多くの国民がまるで家族を亡くしたかのような深い悲しみにくれました。私もそのひとりです。

(優)

カマヤん 自宅待機 ありむら潜



新型コロナウイルス対策に必要なこと…首相独断より科学的知見で

(3月11日現在の記述)

クルーズ船感染蔓延への対応、唐突な全国一律休校要請など、安倍政権の新型コロナウイルス対策は後手後手・ちぐはぐである。

新型コロナウイルス感染拡大の防止策として安倍首相は2月27日、一律休校を要請した。専門家会議の意見を聞いて決めたのではなく、科学的根拠のない「政治的判断」だった。

首相の独断は、あまりにも唐突で、地域ごとの状況を見ないもので、各地に混乱をもたらしている。

特措法「改正」より検査・治療確保

新型コロナに対する水際対策に失敗した今必要なのは、科学的知見や地域の実情に基づいて、十分な検査・治療態勢、経済対策を講じることだ。ところが、与党は新型コロナ対策費ゼロの20年度予算案可決を衆院で強行した。安倍内閣は3月に入って唐突に、中国・韓国からの入国者の2週間待機要請を決定。

「緊急事態宣言」を可能にする新型インフルエンザ特別措置法「改正」の成立も急ぐ。特措法の「緊急事態宣言」は人権制約への歯止めがあいまいである。ましてや安倍政権の下、国民の不安は拭えない。急ぐべき対策は他に山ほどある。新型コロナウイルスを判定するPCR検査が、医師が必要だと判断してもなかなかしてもらえないという。検査が保険適用になっても「帰国者・接触者外来」をもつ限られた医療機関しか検査に対応できないからだ。韓国では1日1万件超の検査が可能になっている。

感染症病床の9割以上は公的病院が担う。政府の公立・公的病院統廃合計画は撤回すべきで、むしろ強化が求められている。

賃金10割の補償を

新型コロナで経済的打撃を受けている業者や労働者への支援も拡充する必要がある。政府の自粛要請などによる「休業手当」への助成は賃金の4割程度にとどまる。一律休校で仕事を休んだ保護者に賃金を支払った企業に対する助成金制度は、1人当たり日額8330円が上限。雇用保険2事業の積立金1兆4400億円なども活用して雇用調整助成金の助成水準を引き上げ、賃金の10割を補償すべきだ。

フリーランスの人は公演・イベントの中止で収入が断たれている。相談窓口設置や貸し付けだけでなく、損失補てんの支援が必要だ。

消費税増税や新型コロナによる経済的打撃は深刻だ。消費税減税の政治判断も求めたい。

今は神に祈るしかない。悪霊退散、世界平和、無病息災、家内安全…で、最後に付け加え

やっぱりコロナウイルスが暴れている。オリンピックは中止か延期かのどちらかになりそうだが(3月18日現在)、それにしても政府の対応がひどかった。経済を最優先したことで、そしてコロナ感染は防げると楽観していたのか。起きてほしくないことは真剣に考えない。そして起きたことは忘れようとする。それで過去の教訓が生かされない。東日本大震災もそうなりつつある。どうやらこれは人間の、特に日本人に顕著な特性らしい。嗚呼

仲間の声

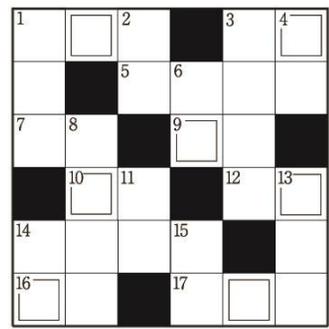
自公撲滅(事故撲滅は大事です)、建交増進(健康増進も)願う事が多すぎるような気がするが…お願いします。

終戦直前の数年、父は炭坑労働者でしたが、行政区割りの関係で、私は農家中心の小学校へ転校いたしました。特に昭和20年当時は、お米の配給。遅配・欠配が多発、当然私は昼食弁当を持参できず、学校で準備した弁当のふりかけ(いなごを粉末にしたもの)をいただくことは出来ませんでした。

今思えば、稲の害虫「いなご」は、子どもたちには貴重な蛋白源でした。欠食児童だった私、「いなご」を求め、稲田をはいすりまわった幼い日々。農薬の散布で、今、稲田には一匹の「いなご」もいません。

福岡県田川支部 原田節生85歳

クロスワードパズル

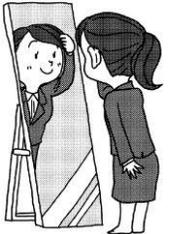


カギを解き、二重枠に入る文字を並べてできる言葉は何ですか。

- 【タテのカギ】①重度の対 ②ミナミの対 ③風下の対 ④かりがね ⑥―たる目的 ⑧年寄り ⑪土地の売買価格 ⑬首が超長い ⑭―を切らして骨を切る ⑮役柄が―につく

【ヨコのカギ】①風景。美しい―を求めて旅する ③旧国名で石川県南部 ⑤引き算の対 ⑦顔に―を塗る ⑨―上浸水 ⑩外の対 ⑫樹木の太い部分 ⑭宴会後、―に繰り出す ⑯同輩や目下の人を呼ぶときなどに使う。諸― ⑰通りすがりの赤の―が助けてくれた

【前回の答え】 ネンドマツ (年度末) 応募者3名、正解者3名でした。個人加盟の笹 耕市さんに1,000円の図書カードを送ります。答えをハガキかファックス、メールで送ってください。正解者の中から1名の方に1,000円の図書カードを贈ります。その際、住所・氏名・年齢(さしつかえなければ)・支部・分会名を忘れずに書いてください。初めての方の投稿大歓迎です! 応募のしめ切り⇒4月25日の消印まで有効。発表は次号で。 ヒント→〇〇〇ガ〇〇〇…みんなで祝いたい! 余白に意見や組合への要望などを必ず書き添えてください。とく名、ペンネーム可。 仲間の皆さん、ふるって応募を! 《あて先》〒010-0976 秋田市八橋南1丁目2番29号 Fax. 018-823-7751 建交労秋田県本部「なかま」クイズ係



個人加盟笹 耕市 72歳

今思えば、稲の害虫「いなご」は、子どもたちには貴重な蛋白源でした。欠食児童だった私、「いなご」を求め、稲田をはいすりまわった幼い日々。農薬の散布で、今、稲田には一匹の「いなご」もいません。